

平成16年度 政策評価書（事前の事業評価）

担当部局：管理局開発計画課

実施時期：16年6月～8月

事業名：NBC偵察車

政策分野：防衛装備の適正な維持・管理（研究開発）

事業内容：化学防護車及び生物偵察車の後継として化学防護隊（小隊）等に装備し、広域にわたる有毒化学剤、生物剤及び放射能汚染地域の状況を迅速に偵察（検知、識別等）し、じ後の部隊運用等に必要な情報を収集するために運用されるNBC偵察車を開発する。

所要経費：約13億円（17年度要求額。後年度負担額を含む。）

評価の内容

1 事業の目的

核・生物・化学（NBC）兵器に対しては、その被害を局限し作戦・戦闘全般への影響を最小限にする必要があり、そのためには早期に汚染地域等の状況を解明し、適切な防護等の処置を構ずる必要がある。

このことから、広域にわたる有毒化学剤、生物剤及び放射能汚染地域の状況を迅速に偵察（検知、識別等）し、じ後の部隊運用等に必要な情報を収集するためのNBC偵察車を開発する。

2 事業の必要性・適正性

(1) 当該事業の位置付け

防衛庁の政策分野及び上位の事業体系における当該事業の役割

本事業は、我が国の防衛技術基盤を強化し、もって防衛力の質的水準の向上に資するものと位置づけられる。

防衛庁が当該事業を実施する理由

NBC兵器が使用された場合の我が国の防衛や災害派遣などは防衛庁の役割である。本事業はこれらに必要なNBC偵察車を開発する事業であることから、防衛庁で実施することが適当である。

当該年度から実施する必要性

化学防護車の損耗更新時期を考慮し、平成22年度から装備するには、試作、技術試験及び実用試験期間を考慮すると、平成17年度に試作に着手し、平成21年度に開発を完了させることが必要である。

(2) 当該事業の必要性

既存の装備等によらない理由

現有装備品をベースにした改良・改善では、NBC偵察機能を一つの車両に搭載することは困難であり、将来の装輪戦闘車両ファミリーとの共通化の可能性等を考慮すると非効率である。

代替手段との比較検討状況

諸外国の類似装備品としては、FOX（米）、VAB-RECO（仏）等があるが、いずれもNBC偵察車としての要求性能を満足するものはない。

- (3) 当該事業における装備品等の数量等の事業内容の必要性・妥当性
システム設計、NBCセンサシステム、車両性能評価用の試作車4両、総合性能評価用の試作車2両及び専用試験装置の試作を行う計画である。平成21年度までに開発を効率的に完了するためには、これらの計画に従った事業が必要である。

3 事業実施の効果・時期

(1) 実施効果

得ようとする効果

- ・ 広域にわたる有毒化学剤、生物剤及び放射能汚染地域の状況を迅速に偵察（検知、識別等）し、必要な情報の収集が可能となる。
- ・ 現行のNC対処とB対処を一本化すること及び将来の装輪戦闘車両ファミリーとの共通化を行うことにより、運用性の向上にともなう費用対効果と整備コスト、ライフサイクルコスト（装備品等の開発から用途廃止までにかかる総経費）の抑制が可能となる。

効果の把握の仕方

平成19年度より実施する性能確認試験を通して、これらの効果を達成可能な能力等を有することから確認可能である。

得ようとする効果の達成見込みの根拠

将来化学防護車主要構成要素の研究試作における結果等から、効果の達成は可能と考える。

(2) 実施時期

平成17年度から20年度までの間に試作、また、平成19年度から21年度までに技術試験をそれぞれ実施することを目処としている。

今後の対応

運用性の向上等により、広域にわたる有毒化学剤、生物剤及び放射能汚染地域の状況を迅速に偵察（検知、識別等）し、必要な情報の収集を行うことが可能になると評価できることから、平成17年度概算要求を実施する。